



光学及びフォトニクス－
光学材料及び部品－レーザ干渉法による
光学ガラスの均質度の測定方法

JIS R 3252 : 2025

(JOGMA/JSA)

令和 7 年 8 月 20 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	田辺 新一	早稲田大学
(委員)	安部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	江坂 行弘	一般社団法人日本自動車工業会
	大瀧 雅寛	お茶の水女子大学
	片山 英樹	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	鐘築 利仁	一般財団法人日本規格協会
	倉片 憲治	早稲田大学
	越川 哲哉	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	是永 敦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	椎名 武夫	千葉大学
	寺家 克昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	清水 孝太郎	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
	清家 剛	東京大学
	高津 章子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	高辻 利之	一般社団法人日本計量機器工業連合会
	田淵 一浩	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	水流 聰子	東京大学
	久田 真	東北大学
	廣瀬 道雄	一般社団法人日本鉄道車輌工業会
	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
	細谷 恵	主婦連合会
	増井 慶次郎	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	山内 正剛	国立大学法人信州大学

主務大臣：経済産業大臣 制定：平成6.4.1 改正：令和7.8.20

官報掲載日：令和7.8.20

原案作成者：一般社団法人日本光学硝子工業会

(〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館 TEL 080-6860-2040)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田3-11-28 三田Avanti TEL 050-1742-6017)

審議部会：日本産業標準調査会 標準第一部会（部会長 田辺 新一）

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省イノベーション・環境局 国際標準課（〒100-8901 東京都千代田区霞が関1-3-1）にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 原理	3
5 測定装置	3
5.1 一般	3
5.2 レーザ干渉計	4
5.3 干渉像解析装置	4
5.4 恒温室	4
5.5 除振装置	5
5.6 二軸調整台	5
6 試料の作製	5
6.1 一般	5
6.2 透過法	5
6.3 PHom 法	5
6.4 オイルーオン プレート法	5
6.5 FT-PSI 法及び SCI 法	5
7 準備	6
8 測定	6
8.1 一般	6
8.2 透過法	6
8.3 PHom 法	6
8.4 オイルーオン プレート法	7
8.5 FT-PSI 法及び SCI 法	7
9 算出方法	7
10 測定報告書	8
10.1 必要項目	8
10.2 推奨項目	8
附属書 A (参考) レーザ干渉計	9
附属書 B (参考) 均質度測定のための温度均一性	12
附属書 C (規定) オイルーオン プレート法による測定方法	14
附属書 D (参考) 試料の平面度	18
附属書 E (参考) W_{PV} の取得方法	19
附属書 F (規定) PHom 法による測定	21

ページ

附属書 G (規定) 線形成分を含む屈折率分布の測定方法	23
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	27
解 説	31

まえがき

この規格は、産業標準化法第16条において準用する同法第12条第1項の規定に基づき、一般社団法人日本光学硝子工業会（JOGMA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS R 3252:1994**は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

白 紙

(4)

光学及びフォトニクス－光学材料及び部品－ レーザ干渉法による光学ガラスの均質度の測定方法

Optics and photonics—Optical materials and components—
Test method for homogeneity of optical glasses by laser interferometry

序文

この規格は、2022年に第2版として発行された **ISO 17411** を基とし、我が国の市場の実態に整合させるため、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

1 適用範囲

この規格は、レーザ干渉法による光学ガラスの屈折率の均質度[1],[2]の測定方法について規定する。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 17411:2022, Optics and photonics—Optical materials and components—Test method for homogeneity of optical glasses by laser interferometry (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1**に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS Z 8120 光学用語

JIS Z 8401 数値の丸め方

注記 1 対応国際規格における引用規格：**ISO 80000-1, Quantities and units—Part 1: General**

注記 2 対応国際規格における引用規格の引用事項に相当する内容を規定している **JIS** に置き換えた。

3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次によるほか、**JIS Z 8120** による。